

全国さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（大船渡地区②）

事業実施者：大船渡市漁業協同組合

使用船舶名：第二十八桜丸(19トン)

支援期間：平成25年8月10日～平成28年8月9日

(さんま棒受網漁業)

（取組の内容）

- 省エネ・省コスト化：省エネ船型、大口径プロペラの採用、低燃費型主機関と小型発電機の導入、LED漁灯の採用等による燃油使用量の削減
- 漁船の安全性・労働環境の向上：主機関の低重心化による船体復原性の改善、二重バラスタンクの設置、監視カメラの活用等による漁船の安全性確保、エアコン搭載等による労働環境の改善・乗組員の意欲向上
- 漁獲物の付加価値向上・高度衛生化：船上箱詰製品の生産と既存さんま製品との差別化による付加価値向上、閉鎖型荷捌き所を有し、高度衛生管理に対応した新魚市場（大船渡市魚市場）の整備



大口径プロペラ



大船渡市魚市場

（事業の成果）

- 平均販売単価は3年とも計画(68.4円/kg)より高かったが、漁場の遠方化等による航海数の減少により水揚量が計画(1100トン)より少なく、水揚高(74百万円、3年平均)は計画(75百万円)を下回った。
- 償却前利益(5百万円、3年平均)は、復興計画の目標値(19百万円、3年平均)には及ばなかった。年度別に償却前利益を見ると、1年目は赤字であったが2年目・3年目と良くなり、**3年目は14百万円と目標の74%に達した。**
- 燃油使用量は、漁場が沖合に形成され、魚群が散在したことから、航走距離及び探索・操業時間が増大し、1年目(128.7kl)及び2年目(125.3kl)とも計画(109kl)を上回った。しかし、**3年目(101kl)は漁場形成が好転し、燃油使用量は目標値を下回った。**